

第 14 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年9月25日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 14 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成29年9月25日(月曜日)

午前10時0分開議

午前10時55分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 共通する事項
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (6) その他

出席委員(15人)

委員長 池田和貴
副委員長 高野洋介
委員 氷室雄一郎
委員 藤川隆夫
委員 荒木章博
委員 松田三郎
委員 溝口幸治
委員 西聖一
委員 渕上陽一
委員 橋口海平
委員 楠本千秋
委員 岩田智子
委員 高島和男
委員 大平雄一
委員 吉田孝平

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 奥 蘭 惣 幸

政策審議監兼

商工政策課長 中 川 誠

観光経済交流局長 原 山 明 博

観光物産課長 永 友 義 孝

国際課長 小 金 丸 健

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

首席審議員兼国際

スポーツ大会推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 山 本 國 雄

教育政策課長 江 藤 公 俊

体育保健課長 西 村 浩 二

総務部

首席審議員兼人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長 斉 藤 浩 幸

地域振興課審議員

兼課長補佐 鈴 和 幸

文化企画・世界遺産

推進課長 手 島 伸 介

健康福祉部

障がい者支援課長 奥 山 晃 正

土木部

道路都市局長 宮 部 静 夫

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 森 本 信 明

交通規制課長 瀬 河 清 信

事務局職員出席者

政務調査課主幹 福 島 哲 也

政務調査課主幹 佐 藤 誠

午前10時0分開会

○池田和貴委員長 それでは定刻となりましたので、ただいまから第14回国際スポーツ大会推進特別委員会を開会いたします。

開会に先立ちまして、御報告いたします。

大平県議が、若干おくれて出席との連絡が入っております。

なお、本委員会に1名の傍聴の申し込みがあつておりますので、これを認めることといたします。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付をしております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思いません。

なお、委員会の運営は効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔をお願いいたします。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 おはようございます。国際スポーツ大会推進課長の水谷です。よろしくお願いいたします。

では、座って説明させていただきます。

まず、本日の資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、A4横のページ上に「第14回特別委員会資料」と記載されているものが1部でございます。でございますでしょうか。

では、この資料に沿って、4つの付託案件を順に説明させていただきます。

では、開いていただいて、1ページをお願いいたします。

最初に、女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件です。

1ページは、大会概要です。

大会期間は、2019年の平成31年11月30日（土曜日）から12月15日（日曜日）までの16日間、試合会場はメイン会場としてパークドーム熊本、サブメイン会場としてアクアドームくまもと、そして予選会場として八代市、山鹿市の総合体育館、参加チームは24カ国、熊本で全88試合が開催される予定で準備をしておりました。

しかし、6月の委員会でも少し触れましたけれども、ことし3月末の国際ハンドボール連盟役員による現地視察において、試合会場や宿泊施設について指摘があり、現在、協議を進めております。これについては、次の2ページで御説明いたします。

2ページをお願いいたします。

まず、(1)の主な指摘事項です。大きくは、2つの指摘事項がありました。

1つは、①の競技会場についてです。予選会場の1つとして予定していた山鹿会場の山鹿市総合体育館については、観客席数が少ないことなどにより、世界選手権大会の会場としてふさわしくないとの指摘を受けました。

次に、②宿泊施設について、予定している八代会場のホテルについては客室の広さなど、また山鹿会場のホテルについては、競技会場からの移動時間などの点で、世界選手権大会の宿泊施設としてふさわしくないとの指摘を受けました。

山鹿市総合体育館については、97年の男子世界選手権大会の会場でもあり、また既存の座席に仮設の座席を設置し3,000席を確保することとしていましたが、座席の一定数はテレビやメディアなどで座席が減ること、また構造上ゴール裏に座席が置けないことなどから、世界選手権を通じたハンドボールの普及や成長性を考慮すると、ふさわしくないというものでした。

また、予定している八代会場のホテルについては競技会場から近いものの、部屋が狭く長年改装されていない。

山鹿会場のホテルについては、立派なホテルではありますが、距離があり、移動時間が50分以上かかるため、ふさわしくないというものでした。

これらの指摘事項への対応状況についてですが、日本ハンドボール協会とともに、テレビ会議や国際ハンドボール連盟役員などとの直接面会により解決策について協議を重ねて

きました。

特に山鹿市総合体育館については、男子世界選手権大会でも会場とされていたこと、これまで何度も日本一に輝くオムロン女子チームのホームタウンでもあり、日本で最もハンドボールが盛んな地域の1つであることなどを主張してまいりました。

この結果、24カ国を4つのグループに分けて行う予選ラウンドの会場には認められないものの、予選ラウンド4位以下の下位12のチームによる順位戦、プレジデントカップの実施に向けて検討していくこととなりました。

また、宿泊施設については、施設の活用方法を工夫することや施設の改修、また移動ルートの変更などについて検討していくこととしました。

これらの指摘事項については、八代市、山鹿市とは市長も含め協議を進めながら検討を進めております。引き続き丁寧に協議しながら、準備を進めていきたいと考えております。

さらに、(3)の3つ目のポツですが、この協議の中で2019年の世界選手権大会の試合数については、出場チームが24カ国、これは変わりませんが、大会方式の変更により、88試合から96試合になることが決定されたとの報告がっております。今後この96試合を前提とした試合日程や会場、また宿泊施設について、来年春に予定されている国際ハンドボール連盟の再度の現地視察を経て決定することとしております。

なお、予選会場の1つとして予定していた山鹿市総合体育館がプレジデントカップの会場になるため、かわりのもう1つの予選会場としては県立体育館を候補地として準備を進めていきたいと考えております。

次に、さきに行われました女子ハンドボールプレ国際大会、ジャパンカップについて御報告いたします。

3ページをお願いいたします。

ポーランド、アンゴラの代表チームも参加した国際試合を、8月の上旬開催しました。

(2)の試合結果にもありますとおり、宇城市、人吉市、山鹿市の3カ所で予定していましたが、最終日の日曜日は県内に台風が接近していたことから中止し、2日間の開催となりました。それぞれの会場の観客数は、表の右にあるとおり、ハンドボールが盛んな宇城市の会場は1,006人と、ほぼ満員となりました。

一方、人吉市の会場は629人と、集客に苦戦しました。

お忙しい中、会場にお越しいただきました委員の皆様、またチケット販売に当たっては地元の県議の先生や経済界の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

また、運営に当たっても、会場地の市役所を初めとして地域の皆様には大変お世話になりましたことを御報告させていただきます。

今回、集客数について大きな課題が残りましたので、日本協会や県協会とも、その対策を早急に練っていききたいと考えています。

4ページをお願いいたします。

プレ大会の試合会場の模様です。2会場4試合が行われましたが、各試合とも白熱した好ゲームとなりました。

また、試合後は、右上の写真にもありますとおり、観戦した子どもたちが選手たちに駆け寄り、サインをもらったり写真撮影をしたりしていました。選手たちも時間をかけて積極的に対応してくれましたので、子どもたちは大喜びでした。

このような機会を数多くつくっていくことが、ハンドボールのファンをふやし世界選手権への誘客につながっていくのではないかと考えております。

次に、5ページをお願いいたします。

プレ大会では、試合のほかにもさまざまな交流会が行われました。(3)の右の写真は、

大会前半の宿泊地となった八代市での代表者会議と懇親会の模様です。監督、コーチなど各チームの代表者や、ロシア、スロベニアからのレフェリー、また懇親会には副議長や会場地の副市長、さらにはアンゴラ駐日大使も参加されました。

懇親会に出された料理も好評で、海外の方々には中締めの後に残って食事を楽しまれたようでした。

(4)は、エクスカージョン、小旅行の模様です。休息日の5日、アンゴラ、ポーランドの選手たちが浴衣を身にまとい、熊本城を見学したり、食事やショッピングを楽しみました。選手たちは、お気に入りの浴衣を選んだりして、大好評だったとのことでした。

6ページをお願いいたします。

(5)交流事業です。日本代表に加え、ポーランドやアンゴラの選手たちも、県内の子どもたちとの交流会に積極的に参加していただきました。7ページにかけては、その様子の写真です。選手たちは、ハンドボールの教室のほか、病院や福祉施設にも出向き、子どもたちとふれあう機会を持ってくれました。

ハンドボール教室に参加した子どもたちは、代表選手の運動能力やテクニックに目を輝かせ、またアドバイスをもらったりして大変喜んでいました。また、入院中の子どもたちや福祉施設の利用者も、ハンドボールを通じた心温まる時間をお互い過ごせたのではないかと考えています。

今後の国際スポーツ大会に向けたさまざまな取り組みの中でも、試合だけでなく、各チームと県民、とりわけ子どもたちと触れ合う機会をたくさん設けていきたいと考えています。

8ページをお願いいたします。

2019年の熊本での女子世界選手権の前の大会となる、ドイツ大会の概要です。

今度の12月1日から17日に、ドイツ国内6会場で、24カ国参加のもと開催されます。

大会の前半は予選ラウンドとして、6カ国ずつが4つのグループに分かれて、総当たり戦のリーグ戦を行います。

日本はグループCで、デンマークやロシアなどの強豪国と当たります。

大会後半は、各予選ラウンド上位4位による決勝トーナメントと、各5位、6位の順位戦、プレジデントカップが3つの会場で行われます。

9ページをお願いいたします。

この予選会場の組み合わせ抽選会、ドロー会議は、各大陸予選が終わり、出場国が決まった後、大会半年前の6月に行われました。

(3)は、大会の入場チケットの種類と価格帯です。入場チケットは、1会場1日限定で、その日に開催される全試合を観戦できるデイチケット、1日1会場限定で、数日間にわたり複数の試合を観戦できるパッケージチケット、1会場1日限定で特定の試合を観戦できるセッションチケットなどがあります。それぞれの料金は、1ユーロ130円で換算しておりますけれども、例えば予選ラウンドの昼間の試合は1,000円程度のものから、決勝戦は1万円を超えるもの、また同じ予選ラウンドでも地元ドイツが含まれるグループDの会場は、他の予選ラウンドよりも割高に設定されているなど、集客と入場料収入の両面をにらみ、工夫を凝らしたチケットングがなされています。

このドイツ大会は、熊本大会の前の大会となるため、大会運営全般にわたって視察調査をするとともに、次回熊本大会のPRを実施していきたいと考えています。

10ページをお願いいたします。

大会キャッチフレーズ募集についてです。大会開催の機運醸成を図るため、大会のPRに広く使用するキャッチフレーズを7月1日から募集しました。当初、応募が少なかつたため応募期間を延長したところ、3,394点の応募が集まりました。

現在、審査を進めていますが、県の地域プロジェクトアドバイザーである小山薫堂さんを委員長にお願いし、選定の上11月か12月中に発表したいと考えています。

6は、今後の主なスケジュールです。

先ほどのドイツ大会の視察も踏まえ、来年3月にはチケットやマーケティング、またボランティアなど、大会実施に向けた計画を策定することとしています。

4月には、冒頭説明しました国際ハンドボール連盟による現地調査を経て、大会の試合会場、宿泊施設等を決定し、具体的な開催準備に本格的に取り組むこととしています。

秋には、本番に即したプレ国際大会を、今回よりも参加国をふやして実施したいと考えております。

同じ2019年の1月に行われる男子の世界選手権を経て、大会半年前には組み合わせ抽選会を行い、大会の日程が決定することとなります。

女子ハンドボール世界選手権大会については、以上です。

次に、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件です。

資料は、11ページをお願いいたします。

大会の期間、会場、予選の組み合わせは前委員会でも御説明したとおりですので省略させていただきます。

12ページをお願いいたします。

6月に行われた国際テストマッチにおいて、観客輸送面などについて来場者へのアンケート調査を実施しておりましたので、その結果を説明いたします。

まず、観客輸送の実績についてですが、総観客数1万8,585人のうち、約3分の2の方がパーク&バスライドやシャトルバスなどの交通機関を利用して来場されました。

その来場者を年代別に見てみますと、13ページをお願いいたします。

年代別に見てみますと、男女とも40代、50

代の方が多く、30代以下は比較的少ない状況でした。

また、住所地は、熊本市内が半分近くと多かったのは、予想どおりですが、県外の方が九州・沖縄が24%、九州外が10%と、合わせて3分の1を占められました。熱心なラグビーファンは、県外へも積極的に観戦に来られていたことがわかりました。

14ページをお願いいたします。

大会開催をどのように知ったか、情報源についてです。

一番多かったのは、知人、家族からの口コミで26.4%、続いてインターネットが21.5%と、2割台の高い数値を示しました。続いて、テレビ、職場、チラシと続きますけれども、口コミは職場からを合わせると約4割、インターネットも県ラグビー協会や県、熊本市のホームページ、SNSを合わせると、こちらも約4割を占めました。もちろん、テレビや新聞などのマスメディアを通じて口コミが広がる面も大きいと思いますので、今回の結果を勘案し戦略的に広報活動を行ってきたいと思います。

15ページをお願いいたします。

来場方法についてです。一番多かったのは、グランメッセ熊本からのパーク&バスライド、続いてJR光の森駅からのシャトルバスの活用で、いずれも18%台の高い割合でした。

パーク&バスライドは、ほかにも東京エレクトロン九州、家畜市場からも実施し、これを合わせると34%、シャトルバスに熊本市街地、JR熊本駅発の臨時バスを加えると28%、2つを合わせると6割以上が臨時のバスを活用されており、バスの台数確保、円滑な乗降と交通規制などが必要であることが改めて認識されました。

16ページをお願いいたします。

これらのバスを利用された方を対象に、その利便性について尋ねたものです。性別、年

代別、住所別にグラフ化しています。

全体的には、おおむね便利だったとの評価をいただいたと考えておりますけれども、県外、特に九州外の方からは、便利だったとの声は5割台にとどまりました。

今回、熊本空港とのアクセスを含め、県外の方の利便性の確保に特に多くの課題が残ったと考えております。

また、ワールドカップ本番では、海外からの観戦者も多く来場することが見込まれますので、表示や案内などを含め、さらにわかりやすい移動手段の確保が必要だと認識いたしております。

17ページをお願いいたします。

会場整備についてです。現在、照明、座席、トイレ、更衣室等の改修、また2面目の大型ビジョンについて整備を進めております。

また、今回の定例会に、右上のほうになりますけれども、中央監視装置、防災設備の更新のための予算をお願いしております。

これらの装置については、20年前にスタジアムを整備して以来更新しておらず、ワールドカップ本番に向けふぐあいがなく万全の状態で開催が迎えられるよう整備するもので、国の交付金を2分の1活用することとしております。

18ページをお願いします。

今後の主なスケジュールです。

ワールドカップは9月の20日から11月2日の約1カ月半が開催期間で、今はちょうど2年前に当たります。現在、全国各地で2年前イベントが行われておりますが、その1つにワールドカップのトロフィーが全国の会場地を巡回展示されます。

熊本では、10月9日の体育の日にやってきます。できるだけ多くの方々の目に触れるよう、熊本市中心部での展示を計画しております。詳細が決まりましたら、改めてお知らせいたします。

また、期間中の最終日11月2日には、いよいよ試合会場、日程が発表されます。熊本で、いつ、どのチームとどのチームが試合するかが決まります。あわせて、チケット販売の概要が発表されることとなっています。

さらに、日程はまだ決まっていますが、この秋に公認チームキャンプの候補地が選定されることになっています。公認チームキャンプ地については、後ほど説明いたします。

12月3日には国内のラグビートップリーグが、えがお健康スタジアムで行われます。ことしはダブルヘッダーで行われ、昨シーズン優勝したサントリーサンゴリアスもやってきますので、多くの観客が集まるよう、県ラグビー協会と連携して誘客を図りたいと思っております。

さらに、来年度からは開催都市ごとに組織委員会の出先事務所LOCが設置され、本大会の開催に向け組織委員会と地元自治体が連携して、より具体的に準備を進めてまいります。

次に、5、公認チームキャンプ地誘致についてです。

先ほどのスケジュールでも触れましたが、この秋に公認チームキャンプ地の候補地が選定されます。ラグビーワールドカップのキャンプは、下の表にあるとおり、事前キャンプと公認キャンプの2種類があります。本県は、右側の公認キャンプに熊本市と共同で応募しています。この公認キャンプは、大会の期間中に行われ、組織委員会が一元管理するもので、宿泊費、移動費、食費などの経費は組織委員会が負担します。

一方、左側の事前キャンプは、大会期間の前に行われるもので、組織委員会の管轄外となります。このため、誘致を希望する自治体は出場チームに個別に誘致活動を行い、合意できれば事前キャンプが行われます。現在この事前キャンプはスコットランドが長崎市で、ウェールズが北九州市で実施することが

合意されており、また宮崎市がイングランド、徳島県がジョージア、長野県上田市がイタリアを誘致する意向があると聞いています。

また、ワールドカップ12会場の中では、神戸市と福岡市の2カ所が誘致を行っていると同っています。現在、本県は事前キャンプの誘致は行っていませんが、公認キャンプの実施に向けて組織委員会の事前調査などに対応しています。この公認キャンプに、本県を含め全部で76県、90自治体が応募しており、ワールドカップの12会場の中では札幌市、神奈川県、横浜市、豊田市、神戸市の5カ所が応募されています。

この76県の中から、この秋にその候補地がまず選定され、その後、出場チームによる実地の視察が行われます。その後、来年春以降に順次キャンプ地として決定されていく予定となっております。

このため、仮に候補地に選ばれてもキャンプが行われなかもしれませんし、どのチームがやってくるかわかりません。また、チームへの誘致活動はできないとされています。しかし、例えばさきの国際テストマッチでは、ルーマニアチームは1週間前に熊本入りし、熊本市内のホテルに宿泊し、熊本市内の練習会場やプールなどで、試合当日まで調整を行い、県民との交流も積極的に参加してくれました。本県は本大会の開催地ですので、熊本で試合するチームの中にはルーマニアチームのように早めに熊本入りし、調整を行うチームがあるのではないかと考えており、しっかりとその準備をしていきたいと考えています。

本大会の会場である本県は、ワールドカップ本大会を万全の態勢で実施するとともに、その強みを生かして、経費や組織の面でも運営の面でも有利な公認キャンプの誘致を優先して行いたいと考えております。

次に、19ページをお願いします。

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件です。

19ページは大会の概要ですので、説明は省略いたします。

20ページをお願いします。

キャンプ地誘致の取り組み状況を報告します。

まず、①インドネシアバドミントンチームについてです。6月に現地を訪問し新しいバドミントン協会長とも面会ができ、熊本のチームとの交流試合の実施や、競技施設や宿泊施設の視察について提案をいたしました。

その後8月に、インドネシア駐日大使が来熊された際、バドミントンチームの誘致に向けた意見交換を行うとともに、8月25日の独立記念祝賀会に出席し、改めて大使に要請を行いました。

このような活動が功を奏したかどうかわかりませんが、先日、提案していた交流試合や競技施設などの視察について、前向きに検討していく旨の連絡があり、現在実施に向けて具体的な協議を行っております。

まだ発表できる状況ではありませんので詳しくは申し上げられませんが、キャンプ誘致の前段階として、ぜひ実現したいと考えています。

また、8月末には同じくインドネシアバドミントンチームの誘致活動を行っている秋田県も訪問し、連絡を取り合いながら誘致活動を行うことなどについて、意見交換を行ってまいりました。

②は、ノルウェーのボート、カヌーチームについてです。

菊池市の竜門ダム班蛇口湖でのキャンプについて基本合意しておりますけれども、8月にノルウェーオリンピック委員会が福岡市にやってきた際、菊池市とともに競技施設や宿泊施設に関する協議を行ってまいりました。

21ページをお願いします。

全日本女子レスリングの合宿についてで

す。10月26日から11月1日に熊本では3回目の合宿が行われます。リオオリンピックの前に1回目の合宿が行われ、練習環境がすばらしかつたと評価を受け、またリオオリンピックでも好成績を上げたことから、昨年10月の2回目に続き、ことしも実施されることとなりました。

④は、ドイツの水泳チームについてです。ドイツの水泳チームは北京オリンピックの際、熊本市のアクアドームで事前キャンプを実施されています。このため、東京オリンピックに向けても、熊本市でのキャンプ実施に向け、大西市長が友好都市であるハイデルベルグを訪問する機会を活用し、ドイツ水泳連盟のトップセールスを行うと伺っております。

(2)は、選手育成に関することです。これについては、体育保健課、障がい者支援課から説明をしていただきます。

○西村体育保健課長 おはようございます。体育保健課でございます。着座にて説明させていただきます。

資料は、21ページの選手育成に関することでございます。

2020年東京オリンピックに向けた選手育成事業につきましては、現在、該当の13競技団体と県体育協会による育成事業を実施しております。

資料22ページをごらんください。

前回、今年度の育成選手の一覧のほうを説明させていただきました。前回は31人の選手を載せておりましたけれども、今回、育成指定選手の変更について御説明をさせていただきますと思います。

バドミントン競技で指定をしておりました再春館製薬所の福万尚子選手と與猶くるみ選手が、再春館製薬所から年度途中でヨネックスへの移籍をしました。それに伴いまして辞退届けが提出されましたので、両選手の指定

を解除したことを御報告いたしたいと思っております。

次に、23ページをごらんください。

選手の主な活躍を紹介させていただきます。

まず、バドミントン競技では、世界国別対抗選手権におきまして、再春館製薬所の山口茜選手が銅メダルを獲得、2017世界選手権におきまして、トナミ運輸園田・嘉村ペアが銅メダル、再春館製薬所の福島・廣田ペアが銀メダル獲得、廣田選手は、新聞等でもきょう載っておりますけれども、昨日まで開催されましたジャパンオープンの混合ダブルスでも銀メダルのほうを獲得しております。

また、バレーボール競技では、国際バレーボール連盟が主催しておりますワールドグランプリにおきまして、NECレッドロケッツの古賀紗理奈選手が6位入賞、世界ユース選手権に日本代表の主将として出場しました宮浦健人選手、こちらのほうは銅メダルを獲得しております。

また、フェンシング競技では、2017ジュニア・カデ世界選手権のジュニア部で、菊地小巻選手が日本人初の金メダルを獲得するなど、育成指定選手が世界の檜舞台で結果を残しているところでございます。

今後とも、県体育協会並びに関係競技団体としっかり連携を図りながら、2020年の東京大会では、より多くの本県関係者が出場し、県民の皆様方に元気と活力を与えることができるよう取り組んでまいります。

以上です。

○奥山障がい者支援課長 障がい者支援課長でございます。よろしくお願いたします。着座にて説明させていただきます。

資料の24ページをお願いいたします。

障がい者支援課においては、東京パラリンピックに向けた選手の育成強化を担当しております。

前回委員会時には選手の指定がされておりましたが、7月4日に指定書交付式を行い、表のとおり13名の指定を行ったところ
です。

また、2行目のマルチサポート委員による支援については、9月10日にトレーニングキャンプを行い、選手の体力測定や面接相談を行ったほか、専任コーチと医師などの専門家から成るマルチサポート委員によるマルチサポート連絡会を開催して、医学的なサポートを含めた選手の支援を開始しております。

今後も、熊本県障害者スポーツ・文化協会や各競技団体等において事業を実施していくこととしており、2020年の東京大会において、より多くの本県関係者が出場できるように取り組んでまいります。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 資料25ページをお願いいたします。

(3)その他についてです。

①は、「東京五輪音頭－2020－」についてです。

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会が機運醸成に向け、前の東京五輪音頭をリメイクされました。熊本出身の石川さゆりさんも歌われており、本県でも機運醸成に向け積極的に活用していきたいと考えております。

先日、そのCDが本県にも送付されてきましたので、県教育委員会と連名で市町村や市町村教育委員会に配付するとともに、その活用を要請したところ、これまで6市町32件が既に活用またはこれから活用するとの報告がなされています。今後も教育委員会と連携し、東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成に取り組んでまいります。

②は、聖火リレーについてです。

各都道府県における聖火リレーの実施の枠組みとなるガイドラインの策定に向け、全国知事会の推進本部に聖火リレー準備会、幹事

会を設置することとなりました。今月末、全都道府県から成る第1回目の準備会が行われますが、全国知事会の副会長を務める都道府県は幹事会にも参加することとなっており、九州では本県が幹事会に参加することとなっております。

熊本地震からの復興を全国、世界に発信できるような聖火リレーが行われるよう、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

最後の26ページは、3つの国際スポーツイベントに係る主なスケジュールで、説明は省略いたします。

長くなりましたけれども、説明は以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いたします。

○池田和貴委員長 以上で執行部からの説明が終わりましたので、質疑に入りたいと思っております。

まず、(1)の2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かございませんでしょうか。

○瀧上陽一委員 今説明をいただきまして、その資料の中の2ページですね、国際ハンドボール連盟役員による視察の対応(1)の主な指摘事項の①ですけれども、「山鹿会場については観客数が少ないことなどのため、世界選手権大会の会場としてふさわしくない」、そのことによって「山鹿会場については予選会場としては認められないが、予選リーグの下位12チームによる順位戦の実施に向けて検討」ということでもありますけれども、まず、この観客席が少ないというのは、具体的にどういったことが指摘されたのか、ちょっと教えていただければと思っております。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 山鹿市総合体育館につきましては、現在1,660席がございます。それは、2階の固定

席と1階に560席の可動式の席がございます。これは変わりませんが、ここに仮設スタンドを大会では組みまして3,000席を確保するというので準備をしております。

3月に視察があった際、実際国際ハンドボール連盟の役員が会場を見まして、そのときは仮設席はありませんので図面での説明でしかないんですけども、ちょっとやっぱり狭いなという印象を持たれたのと同時に、体育館のゴール裏ですね、ハンドボールコートの手前にはゴールがあるんですけども、このゴール裏には観客席が置けない構造になっています。そういう会場は現在ハンドボール、既に国際化とかハンドボールを普及していこうということでメディアなどテレビ放送等を非常に重要視しておりますので、そういった観点からゴール裏に観客席がないというのは、非常に会場としては厳しいという指摘を受けたところでございます。

○淵上陽一委員 これが体育館を建てかえぬかわりに、なかなかゴール裏に多分席をつくるのは難しいでしょう。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 おっしゃるとおり、今の体育館のゴール裏に座席をつくるということは、もう不可能に近い状態です。指摘の中では、どこか別の会場がないのかとか、そういった話もあったんですけども、御説明しましたとおり山鹿市はもうハンドボールの聖地ですので、ぜひここでやりたいと、やらせてくれということと、男子の大会では世界選手権の実際会場だったわけですから、観客も集客も間違いのないということを再度、何度も説明はしたんですけども、なかなかその点は現在のところ覆らずに、プレジデントカップに向けて準備していこうということで、今協議をやっているところでございます。

○淵上陽一委員 順位決定戦は、できるということですか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 実施に向けて今後協議していく、最終的には来年春4月にもう1回視察がありますので、そこで決定しよう。ただ、そっちの方向で協議を進めていくということ自体は了解をもらっておりますので、しっかり準備をしていきたいと思っております。

○淵上陽一委員 開催地と昨年からずっと何度も多分、意見交換なり説明をしながらおいでになられたというふうに思います。

特に山鹿はオムロンもありますし、前回の男子のハンドボールも世界大会やっているわけですけども、山鹿からすれば今年の段階では県のほうから、開催地としてはこのくらいの費用がかかるんだろうという話をされている。

それともう1つは、山鹿では予選リーグもあるだろうというふうな思いもあって、そのくらいのやはり資金はかかってもいいんだろうというふうに思われたと思うんですけども、現在、予選がやれないとなれば、順位決定戦になると、やはり観客数もかなり少なくなるんじゃないだろうかというふうに心配をされておられました。特に、もちろん日本が優勝してくれば一番いいんですけども、仮に日本が予選に勝てなくて順位決定戦に入ってくるとなったときに、日本のチームが負けて、仮に順位決定戦になった場合は、山鹿市ではやれないという話を何か聞かれているような状況でありまして、このままいけば予算は膨らんでいく、まして人は少ない、観客は少なくなる。そうなったとき、日本ももしそうやって山鹿以外でやられるということであれば、多分市民に対してちょっと説明ができないんだと。4日間しかないのに、1億円以上の負担が出るということになると、自分た

ちとしてはなかなか了解は得れないという大変厳しい声が聞こえてきていますので、そこから辺りしっかり県としても考えていただければというふうに思います。

○池田和貴委員長 要望でよろしいですか。

○淵上陽一委員 ここは、もう要望でいいです。

○池田和貴委員長 要望でいいですか。はい。しっかりと対応してください。

ほかにございませんか。

○松田三郎委員 資料3ページ、水谷課長の御説明もありましたが、3の(2)の試合結果のところですね。御説明はちょっとあったのかもしれませんが、観客数が松橋、人吉それぞれあれしてありますが、これ全体のマックスのキャパといいますか分母といいますかを、それぞれ教えてください。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ウイングまつばせは、1,000席です。人吉スポーツパレスは1,578席です。山鹿市総合体育館は、当日は1,320席を準備する予定でした。

○松田三郎委員 1,000ですか、ウイングまつばせは。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 はい。

○松田三郎委員 前日、私は球磨郡ですので人吉の会場のほうには行きて、前日その松橋が1,000人ぐらいだったという話を聞いて、距離的に遠いものもあるけれども、松橋には負けぬどというぐらいに思って行きましたら、確かにちょっと少ないなという感じはい

たしました。だんだん大会が近くなってくれば、一定の関心なり盛り上がりも出てくるんだろうというふうに期待はいたしておりますが、先ほどの御説明で、例えばハンドボール、県のハンドボール協会であるとか、あるいは経済団体あるいは議員の関係、いろいろお願いはしましたということでありました。

なかなか当日どういった方から声かけられてこられたというのは、この把握は難しいとは思いますが、私たちも例のラグビーのテストマッチのときは、これは相当気合を入れてかからぬと、会場も広いことだしというような意気込みで臨みました。

今回はキャパ自体もそう大きくないからそこそこでいっぱいになるのかなと勝手に思って一定の協力はさせていただきましたが。お尋ねというのは、わかる範囲で結構ですけれども、いろいろなところからこう、県のほうも声をかけていただけたけれども、どうもやっぱりこの辺からが余り期待したぐらい来ないとか、この辺がどこか上でとまって下のほうまで行ってなかったとかというような、感覚的な問題でも結構ですし、マスコミもいらっしゃるしますのでなかなか特定の団体も言いにくいかもしれませんが、我々も含めて何かちょっとそういう、次につながる検証の意味も含めてちょっとお聞きしたいなと思っております。質問いたします。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ありがとうございます。

私もいろいろ先生等も含めて回らせていただきましたけれども、ハンドボールという競技に余りまだそうなじみがなかったのかなというのは、非常に印象としてはありました。ラグビーの場合は、ワールドカップ自体が日本全国で行われますので、大きな、東京からのテレビとかそういうのにもたくさんつたので、大体御存じでしたですね、行くとすね。

ただ、ハンドボールの場合は熊本県内だけでやるものですから、なかなか広報がまず行き渡ってないことも、私たちの努力不足もあると思うんですけども、まずそこから説明でしたので、ちょっとなかなか浸透するのに時間が足らなかったのかなというのは正直な感想でございます。

それと大会の期間が夏休みでございましたので、いろんなチーム、ハンドボールチームが来てくれることも、ある意味期待はしておったんですけども、やっぱりいろんな合宿とか試合とかということで、なかなか予定が既に入っていたりとか、そういうこともあったので、意外とそういうところも、もうちょっと事前から、そういう合宿を計画される前に早めに情報提供して、来ていただくような努力をしていかないかぬなと感じたところでございます。

○松田三郎委員 はい、わかりました。

あと要望ですけども、これは主なスケジュールの中で、これから実際の大会のときのチケットの販売方法とかというのはこれからだと思いますが、例のラグビーのテストマッチのときもあったように、やっぱり我々の選挙と一緒にです、直接手売りしたほうが確実な面があるかなというのを実感しておりますので、できるだけ県のほうからも早めに、そういったのも枠を持っていただきたいというのを事前に要望しておいていただければと思います。

以上です。

○池田和貴委員長 はい。ありがとうございました。

ほかにございませんか。

○吉田孝平委員 ハンドボールの大会ですけども、私も見に行ったんですけども、松橋はハンドボールが盛んで、子どもたちとか

大人の方たちももともとハンドボールをしていた方が多く来られていたんですけども、初めて来られた方が、やはりルールがわからないという話が結構出ていましたので、ラグビーのときは電光掲示板に結構ルールが出ていてわかりやすかったんですけども、ハンドボールは何もなかったですね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ありがとうございます。

ラグビーは電光掲示板には現在のプレーの、例えば反則、こういう反則ですよという説明があったと思うんですけども、ハンドボールはそこまでできませんでした。ですので、大会のプログラムを無料で配付したんですけども、その中に簡単な、まあジャッジと反則の内容とか、そういったものは載せておったんですけども、なかなかハンドボールは展開が早いものですから、見てという感じがなかなか難しい競技だなというのも実感しておりますけれども、その辺もしっかり周知したいと思います。

○池田和貴委員長 よろしいですか。はい。ほかにございませんか。

○荒木章博委員 前は山鹿で認められて、いろんな世界大会になった。もちろん世界大会だったですけども、10数年たつと非常に規定がやかましくなって、山鹿のほうは予選会場としては認められないということを淵上委員からも言われたけれども。やっぱり、それは地域においては大変なことだと思うんですよ。だから、やっぱりいろんなキャンプとか子どもたちの触れ合いとか、いろんなところをやっぱり山鹿で考えてやられないと、これは地元から出ている議員さんというのは大変ですよ。私が山鹿市選出なら、それは首絞められるようなもんですよ。やっぱり聖地ですから、山鹿というのはね。だから、もちろ

んそれを考えながら行動されて今から取り組んでいかれると思うんですけれどもね。だから、そういうのはやっぱり今後、いろんな子どものハンドボールの交流、高校しかないのか中学しかないのかわかりませんが、やっぱり九州の大会をやるとか、誘致するとか、そういうことを考えながら、そこにやっぱり日本チームの選手とか、触れ合いとか、そういうのを僕は山鹿で考えていかれるべきじゃないかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 はい、ありがとうございます。

実は男子の大会のときも山鹿が会場でした、そのときにいろんな全国からのハンドボールをやっている方々が山鹿に実際来られて試合を観戦したりとか、一言で言えば山鹿を盛り上げようということで実際されておりますので、そういったことを今回もぜひやっていきたいというふうに思っております。

○荒木章博委員 淵上先生は人間がいいから、そこまでは言いきんなはらんどけん、俺が横からよけいなことばってん言うてですね、やっぱりそういうところは協力しようてやっていかなければいかぬだろうと思うんですよね。学校交流とか訪問とか、そういうのは積極的に対応していただきたい。たまには県がバスを出すとか、そんなことをして触れ合いをやっぱりやられたらいいかなというふうに思いますね。

終わります。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

なければ、次にラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑はございませんでしょうか。ありませんか。

○橋口海平委員 今度10月28日にレベルファ

イブスタジアムと、11月4日に日産スタジアムで日本代表戦があるかと思うんですけれども、そのとき何か対応というか視察などはされるのでしょうか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 まだ詳細は決めておりませんが、当然、現地に行きまして視察も行いますし、ほかの競技会場と一緒にPR活動をするなり意見交換するなり、そういうことはしっかりやっていきたいと思っております。

○橋口海平委員 前回、熊本で試合があったときは結構、先ほどの入場者の動向とか、県内が何人、県外とかなんですけれども、結構県外が来ていたということで、熊本の試合のときも結構近隣からバスで来ていたりしていたと思うんですけれども、今回そういうバスで行くとか、そういう考えとかはあるのでしょうか。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 そこまでは、ちょっと。

○橋口海平委員 はい、わかりました。

多分、余り大きなスタジアムじゃないんで、すぐいっぱいになるかとは思いますが、行ける方は行って会場を見ていただければと思いますので、お願いします。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

なければ、次に2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、質疑はございませんでしょうか。

○荒木章博委員 オリ・パラの件でバドミントンのキャンプ地誘致で協会やら担当課のほうで向こうに行かれて、ある程度、これは秋田だったですかね、秋田との競合になっていると聞いています。松野議員が秋田のほう

強いんじゃないかという話もちらったされたんですけれどもね。私は競い合うんじゃないなくて、前々から言っているように、お互いが顔が立つようにと言ったらいかぬですけれども、勝った負けたではなくてですね、キャンプはどこ試合はどこでと、熊本で、秋田で、そういうお互いが相互の理解をし合うような形をとったほうが一番ですね。お互いが、県同士が争って、こっちが勝った、あっちが負けたとなると、お互いが盛り上がり欠けてくると思うものですからね、そういったところを1点お尋ねしたい。

2点目は、やっぱりこれだけの再春館という1つの組織があって活躍をして、今回は残念ながら金は取れなかったけれども、あの高松ペアにやられたけれども、入賞はできなかったけれども、やっぱり青少年の交流というのを頻繁にやるべきだと思うんですよね。やっぱり盛り上がるためにですね。だからインドネシアとのバドミントンの交流、せっかくこの前、大使も熊本に来られて、私もちょっと短い時間だったけれども参加させていただいてお願いをしたりしているんですけれども、そういう青少年との交流について考えていかれる考えはないか、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 インドネシアバドミントンのキャンプについては、秋田県も取り組まれております。秋田県の地元の企業さんのバドミントンチームのコーチがインドネシアの方だったということもあって、あちらのほうは状況としては若干先行されている部分がありました。ただ今回、先ほどちょっと触れましたけれども、こちらに熊本に来られるような話を今いただきましたので、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

その中では、秋田県のほうに8月行ってまいりましたけれども、お互いに連絡を取り合

いながらやっていきたいと思いますというお話をしたところ、向こうのほうも、それはぜひお願いしますということでしたので、いろいろなことをやりながらやっていきたいと思えます。

それとジュニアの交流のお話ですけれども、今度は交流試合をインドネシアに申し込んだところ、ジュニアチームの派遣も検討をいただいているようですので、そういった形で青年、シニアの交流試合だけではなくて、ジュニアの交流もできるように、ぜひ実現していきたいと考えております。

○荒木章博委員 もちろん壮年も大切ですが、やっぱり子どもたちの交流というのを、インドネシアの子どもたちとの交流、そういうところから熊本県が盛り上がっていくんじゃないかなと思うんですよね。すぐにオリンピックに出るような子たちじゃないようですけれども、1つの啓発をやっていくということも一番大切なことだと思いますので、引き続きそれは努力をお願いしたいというふうに思っております。よろしく申し上げます。

以上です。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

ないようですので、次に共通する事項についてに移りたいと思えます。質疑はありませんでしょうか。

○西聖一委員 冒頭に宿泊施設の関係も出ていたんですけれども、食べ物ですね、オリンピックの選手についてはJGAPという国際GAPで、承認されたものしか食べられないという話は聞いていますけれども、熊本県の大会の場合は、この場合はどのような扱いになるのかなというのを、ちょっとお聞きしたいんですけれども。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ハンドボールの大会については、世界選手権の実施マニュアルというのが国際ハンドボール連盟で定めてあります。その中で推奨する食事というのが明示されておりますので、それにのっとって実際宿泊されるホテルなどと協議をしながら、食事を準備していきたいと考えております。

○西聖一委員 当然、JAとか地元産地業者とのやっぱり連携をとって、なるだけ熊本のものを納入できるような、そして試食できるような体制は今とっておられるんでしょうかね。

○水谷首席審議員兼国際スポーツ大会推進課長 ぜひ、そのようなことをやっていきたいと思っておりますし、ラグビーのテストマッチのときに、試合が終わった後の懇親会みたいなのがあったのですけれども、農林水産部のほうからも御協力いただいて、地元の産品をその場に提供させていただいたりとか、そういったことは、その大会だけじゃなくて、事前の大会とかテストマッチからでもやっていきたいと考えております。

○西聖一委員 期間が短いから融通はきかせてもらうかもしれませんが、ホテルとかは業者等も決まっているから、なかなかよそのものを入れようとする環境にないというのはよく聞くので、相当な圧力をかけてもらって、熊本のものを今回は食べてもらうように、働きかけをしっかりと、農林水産部とやっていただきたいと思います。これは要望です。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

○荒木章博委員 いつも言うんですけどもね、こういう国際的な大会になると、熊本の

文化ですよね、文化の、地域の、やっぱりいろんな熊本には国宝級なものもありますし、そういうところのやはり通訳とか、熊本県の通訳者とかいろんな向こうから来られる方たちのマップとか、そんなものをやっぱりきちんとしていただきたいなというふうに思うんですよね。今から合宿もありますし、剣道の世界大会の合宿も熊本で韓国チームがするかもしれませんので、再度ですね。だから、そういうところにもアピールできるようなものを、やっぱりつくっていただきたいなというふうに思うんですけども、部長いかがでしょうか。

○奥菌商工観光労働部長 この大会の位置づけとしては、やはり熊本地震からの復興を見せるということをごさいますて、その中の柱になったのは、やはりインバウンドを充実させるという意味合いで、いろんな取り組みを今から始めたところをごさいまするが、そういう取り組みもこの中に織り込んで、ぜひそういう、今おっしゃったような交流といいますか、熊本の文化を見せるというようなことも織り込んでまいりたいというふうに思っています。

○荒木章博委員 以上です。

○池田和貴委員長 はい、よろしいですか。

○橋口海平委員 要望を。今度1月にバスケットのオールスター、それと夏にプロ野球のオールスターがあるかと思えます。やっぱり、そういうオールスターもあるので、そういったところも見て勉強していただくのはもちろんなんですが、そういうプロスポーツの、熊本のプロスポーツのチームともぜひ連携していただいて、野球はプロはないんですけども、そういう団体とかとも連携していただいて、広く周知とかやっていただきたい

と思っております。

○池田和貴委員長 ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 なければ、これで質疑を終了したいと思います。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため次期定例会まで本委員会を存続し審議する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

次に、その他に入りますが、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○池田和貴委員長 なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。

午前10時55分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長